

特別活動部会

研究主題 望ましい集団活動を通して、 よりよい集団を築こうとする生徒の育成

1 主題について

子どもが集団の中で自己の存在に肯定感をもつとともに、他者の存在も認めながら、よりよい生活を築こうとする目標意識を高めていくためには、学級集団の意義が問われると考える。そこで、どのような学級集団の形成を目指すのか、また、どのような集団活動を取り入れるのが望ましいかという課題を追究するために本主題を設定した。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月12日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月8日	第2回総合研究会 授業研究会（花岡中学校）

3 研究内容

(1) 授業研究

- ・期 日 平成24年11月8日（木）
- ・会 場 花岡中学校
- ・単元名 3年 進学・就職の準備と実現への努力
- ・授業者 菊地 裕之

① 授業者から

- ・本題材について、本来であれば2年生の題材と思われるが、3年生がこれから進路選択をする前にもう一度、「働くこと」や「仕事」について、じっくりと考える時間をもたせなかった。
- ・学級の雰囲気は、やさしい感じがある。話し合いをさせるに当たっては、どのくらい意見が出るのか心配なところがあったが、思った以上に挙手や発表があった。
- ・パネルディスカッションということで、パネラー同士の質疑応答は事前に指導をした。フロアについては指導をしなかったため、どんな質問が出てくるのか、おもしろみを感じながらの授業であった。
- ・授業の内容を含め、話し合いの持ち方について、いろいろと教えていただきたい。

② 協 議

- ・職業を選ぶ基準について、4つであったが、その経緯は？
→アンケートの結果から、4つの基準に設定し、様々な観点で話し合いができると考えた。
- ・授業の最後の手紙は、どのようにして2人に決めたのか？
→仕事に関することから、幅を広げて、地元以外で働かれている方に手紙をお願いした。
- ・4人のパネラーの決定については、どうであったか？
→価値基準についての作文を書かせ、その中で最も主張が強いを選び、パネラーとした。
- ・これまでの学級活動の中で、生徒が司会をした活動はあったのか？
→生徒数が少ないので、誰かが司会をして話し合う場面はよくあった。
- ・司会の生徒とパネラーの生徒とどのような打ち合わせや指導があったのか？
→フロアの生徒には、発言や質問する力のある生徒が多くいた。パネラーとは、時間をかけて打ち合わせを行った。質問を出し合うようにし、話し合いが深まるように指導した。
- ・職業観や勤労観について考えを深めるためのパネルディスカッションは効果的であった。
- ・職業についての学びや積み重ねについては、職場訪問や職場体験で事前・事後のアンケート等でその変容を把握する程度であった。

- ・生徒主体の活動について、話し合いについては、生徒が主で学活等を進めることが多い。
- ・3年生にとっては、今日の授業内容が適切であったように感じた。
- ・授業のねらいについて、一般的に3年生のこの時期は、進路の不安や悩みを乗り越えようだったり、進路選択の価値基準だったりするが、今日の授業は否ではないように感じた。
- ・授業のねらいの「深める」とは、生徒の考えが変わる、生徒の変容が見えると捉えている。
- ・話し合いの中で、パネラーが悩みながらも受け答えする場面があつてよかった。
- ・話し合いのよさは一人の考えを共有して、自分の考えを深めることができるところである。
- ・職業に関する価値観の変容について、その理由等を聞く場面があれば、さらに職業観についても深まった。

(2) テーマ研究

- ・部会テーマ「望ましい集団活動を通して、よりよい集団を築こうとする生徒の育成」に基づいた各校の実践例を紹介し合った。様々な取り組みを学ぶことができた。



【パネルディスカッションの様子】

(3) 指導助言（檜森 秀樹 指導主事）

- ・生徒主体の授業であり、パネラーやフロア等の授業の展開は、非常によかった。
- ・教師と生徒、生徒と生徒の信頼関係がしっかりとできている。
- ・パネラーは自分の考えをもって臨んでいたもので、フロアにも自分の考えをしっかりともちたせて臨ませたいものだ。言葉による助言が、司会者からであればよりよかった。
- ・進路コーナーは、教室内に設定し、進路について見通しがもてる掲示をお願いしたい。
- ・指導要領の解説には、指導についての学年が示されているので、計画的に指導してほしい。
- ・3年生は、1、2年生の経験をまとめていく時期。いろいろな選択や決定があり、志望校の選択・決定、職業の選択・決定、選択理由などがある。
- ・指導には、3年間を見通した計画が必要である。
- ・学級活動(1)では、子どもが考えた活動計画で話し合い、集団決定し、実践する。
- ・学級活動(2)では、多くの考え方に触れ、自己決定し、実践する。
- ・学級活動(1)は集団で決め、みんなでルールを守る。小さな活動を繰り返す。学級活動(2)では、いろいろな話を聞き、自己決定し、自分で決めたことを実践し、自己評価する。粘り強さ、自己指導力など。学級活動(1)(2)の実践から、道徳的な価値に結び付けていく。
- ・これからの学級活動では、話し合い活動や実践の中から、生徒指導的な面や道徳教育と結び付け絡めていくことも大事である。
- ・指導案については、国研の資料を、評価規準も含めて、利用してかまわない。評価の段階では、身に付けさせたい力と具体的な姿を評価規準として示せば、見取ることができる。
- ・鷹巣小、鷹巣中での授業を各校の実践に生かしてほしい。また、今日、持ち寄った各校の実践例を生かしてほしい。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・話し合い活動が生徒主体の授業展開となり、個人の進路や職業の選択・決定につながることを期待される。

(2) 課題

- ・3年間を見通した指導計画の吟味をし、より一層話し合い活動の充実を図ることで、集団思考を生かした集団決定や自己決定ができる生徒を引き続き育てていきたい。